

耳鼻咽喉科臨床研修プログラム

【指導医】

木村 光宏（耳鼻咽喉科部長）：日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医・指導医、緩和ケア研究会修了
上級医 ト部 晋平

【期間】：4週間

【一般目標 GIO】

地域住民に信頼される全人的な診療および指導を行えるような、耳鼻咽喉科医師としての求められる役割を理解し問題解決に導けるべく必要な知識・技能・心構えを習得する。

【行動目標 SBOs】

臨床研修医に求められる耳鼻咽喉科的な臨床能力及び全人的な対応を身につけるために、以下にあげた行動目標をふまえ研修を行う。

1. 耳鼻咽喉科診療に関して様々な状況に配慮して多角的な視野を持ったマネジメントを行うことができる。
2. 患者・家族・スタッフなどと良好なコミュニケーションをとることができる。
3. 担当医として入院患者の治療にあたり、病態の把握、治療方針の決定、IC やリスク管理の実際に立会い、患者さんやコメディカルとの良好な信頼関係が築けるようにする。
4. 指導医とともに病棟回診、外来診療に従事し、周術期管理、外来処置などの実際を学ぶ。
5. 生理機能検査（聴力検査、平衡機能検査）の所見を正確に解釈し、治療方針を決めることができる。
6. 外来・病棟において、指導医の下で患者さんとのかかわりあいの中で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本的な知識・技術を習得する。
7. 甲状腺エコー検査の診断、エコーガイド下穿刺吸引細胞診の手技や診断を習得する
8. 内視鏡検査の手技を習得する。
9. 耳科・鼻科・頭頸部の画像検査の読影法を習得する
10. 手術室において手術の流れを理解・介助し、基本的な手術手技の訓練を行う。
11. カンファレンス、抄読会に出席し、プレゼンテーションを行うことにより、客観的評価に耐えられる診断、治療方針を立てることができる。

【方略】

1. 担当医として入院患者を受け持ち、患者・家族・スタッフと信頼関係を構築し、円滑に診療を行う。
2. 問診、病歴、所見の取り方を学び、その結果をカルテに記載し、指導医とともに治療計画を立案する。
3. 個々の症例に必要な情報収集を積極的に行い、文献（英語も含む）からも最新の情報をえて治療方針に活用する。
4. 甲状腺エコー検査、エコーガイド下穿刺吸引細胞診、内視鏡検査の経験をする。
5. 頭頸部外科手術の助手を務め、指導医の指導のもと、両側口蓋扁桃摘出術や気管切開術などの基本的手術手技を会得する。
6. カンファレンス、抄読会に出席し、プレゼンテーションを行う。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	手術	外来	手術
午後	病棟回診・カンファレンス・細胞診など	病棟回診	手術	病棟回診・細胞診など	手術

【評価】

1. 研修医による評価：PG-EPOC（EPOC2）に自己評価を行う。研修後にレポートを用いて自己評価を行う。
PG-EPOC（EPOC2）を用いて診療科の指導内容・研修環境を評価する。他者評価表を用いて指導医を評価する。
2. 指導医による評価：外来・病棟・救急診療において、診断・治療技能、態度について適宜、研修医の評価を行う。症例検討会において、症例提示や意見交換をもとに、総合的判断能力について評価を行う。入院サマリー・レポートを踏まえて知識・情報収集能力について評価を行う。
PG-EPOC（EPOC2）を用いて研修医評価する。他者評価表を用いて指導者の評価をする。
3. 指導者による評価：他者評価表を用いて研修医、指導医の評価をする。